

いい音で聴け!

和田博巳の真・ハイエンドオーディオ宣言

話題の音楽ストリーミングはリスニングスタイルを変える

AWA、LINE MUSIC、そしてApple Music。これらの定額制音楽ストリーミングサービスが日本で始まったことは本誌8月号でもお伝えした通り。最近ではテレビCMを目にした方も多だろう。それほどまでに注目されている音楽ストリーミングとは一体どこが優れているのか。一見すると「ハイエンドオーディオ」には関係のなさそうなこのサービスを実際に試してみよう。(編集部)

14



(今は初回登録から3ヶ月間の無料お試し期間中)。トップページ上のタブの「NEW」をクリックすると、新譜情報がずらりと出てくる。その3番目に、スライ&ザ・ファミリー・ストーン「Live at the Fillmore East October 4th&5th 1968」があった。日本版アップルミュージックなのに、アルバムタイトル表記は米国盤と同じで、国内盤タイトル(「ライブ・アット・ザ・フィルモア・イースト」)

ではないところも本国っぽくてかっこいいぞ。さっそく聴いてみた。システムはMacとオポポのBDP105J PをUSB接続してD/A変換後、BDP105J Pのアナログ・アウトをパイオニアSC-LX888に入力(アナログ・ダイレクトモード)、これでフランク・セルプリンのアッコルドを爆音で鳴らす、というやや変則な再生法だが、いやー凄い迫力だ。ラリー・グラハ

Topics & Reviews *Audio* components

ムの子ヨッパー(スラッピング)ベースもブリブリと唸りをあげて疾走するし、全編ブラック・ファンクネスがメラメラと燃え上がった、クソ暑い夏に聴くにはもう最高。しかも操作性は抜群で快適このうえない。アップルミュージックは、先行するスポティファイやTIDAL(タイダル)をよく研究したと分かる洗練と使いやすさが見事だ。我が国のラインミュージックやAWAも洗練され

た画面と操作性のよさで、頑張っているなという印象をぼくは持っている。
ストリーミング配信は天国への階段に通ず
と書く読者は「でもアップルミュージックでしょ。音源はロックス・圧縮でしょ、ハイファイじゃないでしょ」と。そのとおり、音はロックス・圧縮である。でもこのスライのお宝ライブ・アルバムが

昨日日本屋に立ち寄ったら、音楽誌「レコード・コレクターズ」の最新号が眼にとまった。特集は「スライ&ザ・ファミリー・ストーン」。おお! スライか、懐かしいな、とさっそく手に取って中身をパラパラ。
内容は、スライ&ザ・ファミリー・ストーン、1968年フィルモア・イースト出演時の未発表お宝録音を発掘、というもの。ということは、サード・アルバム「ライフ」の発売後で、翌年にウッドストック・フェスティバルに出演して大観衆の度肝を抜いた、その前年のライブ録音ということだ。全盛期を迎えて、勢い溢れる怒濤の如き濃くてファンキーな演奏を繰り広げているに違いない。

とは思ったものの、CDは4枚組というボリュームで価格は4860円(国内盤)。演奏はきつと素晴らしいに違いないと思っが、もし買ったあとで音質がイマイチと分かったらガックリである。でも完全限定生産なので早く買わないとなくなってしまう(輸入盤も初回限定生産だ)。悩んだぼくはどうしたかというと、家に帰ってMacを立ち上げ7月1日に日本でもスタートしたばかりのApple Music(以下、アップルミュージック)にアクセスした

+ PCでも使える 大本命のApple Music



↑Apple Musicの基本料金は月々980円だが、初回登録から3ヵ月間は無料で試用できる。最大6メンバーが利用可能なファミリープランは月々1,480円。画面はMacのiTunesのもの。AWA、LINE MUSICは今のところPCでの再生に対応していない

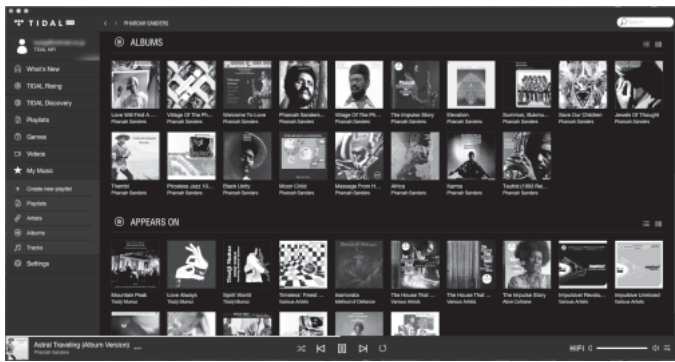


↑Apple Musicでは、はじめにお気に入りの音楽ジャンルやミュージシャンを選ぶことになる。とは言っても、これはとりあえずのもの。使い込んでいくうちに自分の再生履歴をもとにオススメなどを提示してくれるはず



↑お気に入りとしてブルースを登録しておいた結果、「For You」つまりオススメのプレイリストは新旧のブルースが並んだ。ジャンルの分別方法自体に疑問もあるが、新たな発見をしたいという積極的な用途に充分利用できるだろう。もちろん、「ながら聴き」にも最適だ

世界ではストリーミングをCDクオリティでも楽しめる



↑いくら楽しいサービスでも、音が悪いのであれば、オーディオファンが楽しむには物足りない。それを解消する可能性を秘めたサービスがTIDAL(写真)などCDクオリティでの配信サービスだ。写真は今年の東京ジャズに来日予定のファラオ・サンダースのページ。リーダー作品のほか、「APPEARS ON」=本人参加作品が表示されている。「Similar Artists」(関連アーティスト)にはドン・チェリーやオーネット・コールマンの名前が並んでいる

90年代以降は、クルマ、ゴルフ、観光旅行、グルメと多様化した娯楽のせいで音楽を真剣に聴く

音楽をわざわざ聴くように聴いた若いころのあの感覚が蘇る

聴くことはできないと、高級オーディオマニアの多くは思っている。でもリンのネットワークプレーヤ

実を言うと、100万円〜1000万円も出さないとCD/SA CDプレーヤーで本当にいい音を聴くことはできないと、高級オーディオマニアの多くは思っている。でもリンのネットワークプレーヤ

ネットワークプレーヤーがある。アンブとスピーカーはいつの時代にも絶対に必要だ。そう考えるとオーディオはまだまだ元気だと思える。思うのだ。

CDプレーヤーに頼らずとも、ネットワークプレーヤーがある。アンブとスピーカーはいつの時代にも絶対に必要だ。そう考えるとオーディオはまだまだ元気だと思える。思うのだ。

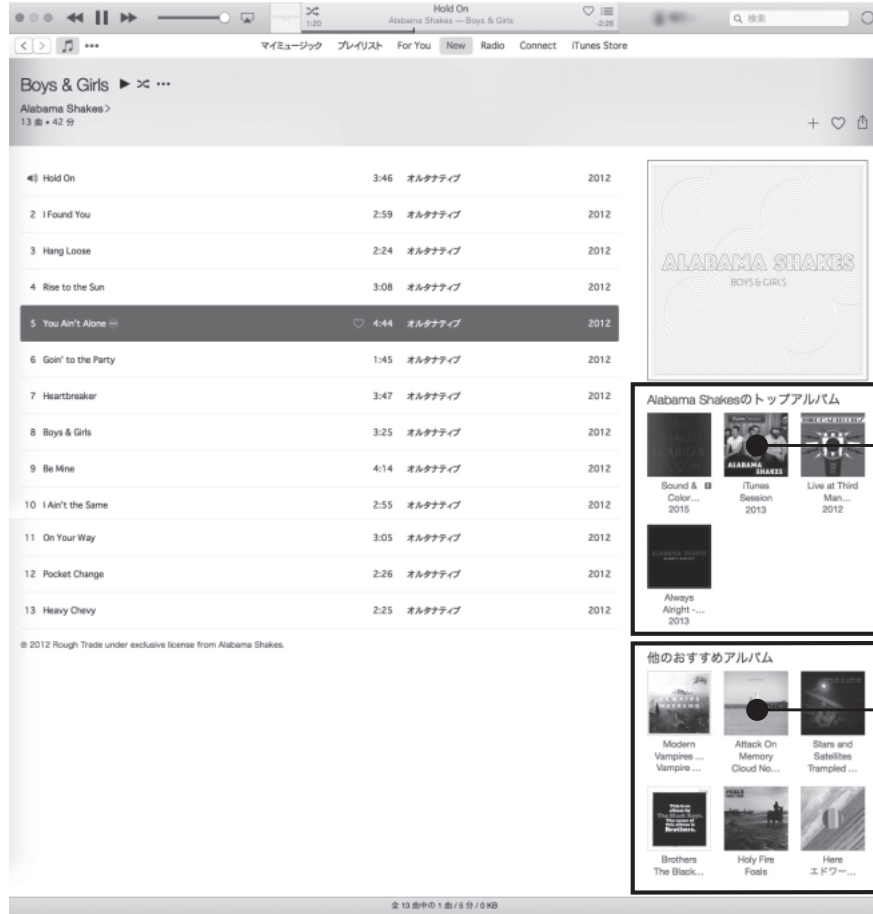
できる。タイダルはパソコンだけでも音楽は再生できるが、パソコンをUSB DACにつないでいただけではオーディオ的に言うとうと音がよくない、というか悪い。その点リンのDSシリーズで直接タイダルにアクセスすれば実に音がいい。さらにも対応していること。クーパーズ

はフランスが本拠地で、欧州でダウンロードによるハイレゾ配信と、CDクオリティのロスレス・ストリーミング配信の両方を行なっている。クーパーズは6月までに、タイダルは年内にハイレゾでの定額ストリーミングサービスを行なうと言っていたが、まだ始まつてはいないようだ。一説によるとこれが実現するとハイレゾが月額35ドル程度(と言われている)で、聴き放題。つまり毎月4000円くらいで世の中にあるハイレゾ音源のかなりの数のタイトルが聴けてしまう。もしもそうなら、音源を提供するのはレコード会社にならなければならない。レコード会社とは合意の上ということになるわけだ。じゃあレコード会社的には問題は無いということ。でもCDプレーヤーを作っているオーディオメーカーがこの事実を知ったら、落ち着いてはられないだろう。日本人はパッケージメディアが好きだからと言ったって、よくみないな年寄りほとんどみんなあ世に逝ってしまつたのだから。

時間もずいぶん減り、それに伴わないCD購買層もオーディオ人口も減少の二途を辿った。しかし月額2500円程度で、CDクオリティで世の中のおおよそ90%以上のアルバムが聴き放題で、さらに月額4000円程度でハイレゾが聴き放題となると、多くの人間が音楽をまた真剣にたくさん聴くようになるかと断言できる。中高生時代に音楽の素晴らしさを知ってむさぼるように聴きまくった、あの感覚が蘇ってくると思う。音楽を聴く時間がグンと増えると、その音楽をもっといい音で聴きたいとみんな必ず思うようになる。そうするとオーディオブームがまたやってくるだろう。日本国内のオーディオメーカーは「CDプレーヤーが売れなくなるから」なんてけつ穴の小さいことを言わずに、音がよくて操作性に優れ、いかなるネットワーク環境でも設定が楽な、つまりお父さんフレンドリーなネットワークプレーヤーを真剣に作って欲しいと切に願う。

ーは、最高峰グレードのクライマックスDS/2でも240万円だがすこぶる音がいい。しかもDSはタイダルにもクーパーズにもすくなく対応している。だから国内メーカーも音がよくて使いやすいネットワークプレーヤーを作ると、今後はグンと売れるようになるかも。たとえば、パイオニアのネットワークプレーヤーN70Aは(たった)14万2千円だが、かなり音がよい。しかもDS D5・6 MHzファイル再生への対応は今のところリンのDSにはない特徴だ。こういう製品を、じっくり育てていって欲しい。そして早くBD PL X88クラスのネットワークプレーヤーを作りたいと思う。あんまり価格が安過ぎて自分の首を絞めることがないように適正な価格で。そしてデノンもヤマハも負けじと頑張っているネットワークプレーヤーを作っていたらいい。切磋琢磨して欲しい。

聴き放題はユーザーに何をもたらすか?



←Apple Musicで曲/アルバムを選択すると、左の画面のように表示される。左側にはアルバムの曲が並び、右上にはジャケット写真が見える。こうしたサービスで注目したいのはジャケットの下に表示された項目だ。ここでは新譜が羅列される「New」のタブから、アメリカのソウルやブルースを基調にしたロックバンド、アラバマ・シェイクスを選択している。「他のおすすめ」にはヴァンパイア・ウィークエンドやクラウド・ナッシングスなど、いわゆるインディー・ロック的なバンドが名を連ねた。まずは新譜から気になるものを、そしてそこから数珠つなぎに音楽を探るのが聴き放題の醍醐味。どれも数十秒の試聴ではなく、何の気兼ねもなく、すべてのアルバムをフルで聴けるのだ

同ミュージシャンの作品表示
「トップアルバム」、つまり、再生中のミュージシャンの作品(アルバム)の中で、人気のあるものが表示されている。ここをクリックすれば、そのアルバムの再生、プレイリストへの追加が可能というわけだ

同傾向の作品表示
「おすすめアルバム」は、これ聴いている人はこれも聴いていることが多い、といった具合に、選択したミュージシャンと同傾向の作品を提示してくれる

前号の巻頭コラムでもちょっと触れたが、タイダルはロスレスのCDクオリティ(44・1kHz/16ビット)で音楽配信を行なう定額ストリーミングサービスだ。月額たった19・99ドルで約3000万曲が聴き放題。だが、日本にはまだこの定額ストリーミング配信サービスは上陸していない。日本のレコード会社が音楽著作権協会か、その要望の受け皿たる文科省かどこか分からないが、とにかくまだ鎖国状態にある。ぼく

必要としないからだろうか? 必要としないからだろうか? 必要としないからだろうか? 必要としないからだろうか?